

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175100288		
法人名	有限会社 なごみ		
事業所名	ライフイン なごみ		
所在地	紋別市落石町3丁目45番9号		
自己評価作成日	令和1年12月11日	評価結果市町村受理日	令和2年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15年目の現在は、職員17名中6名が管理者研修の終了者であり、うち2名が認知症実践者リーダー研修も修了しています。  
職員の離職率が低く入居者様と職員との馴染みの関係が築かれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0175100288-00&amp;Ser">nhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0175100288-00&amp;Ser</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年7月2日(令和元年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開設した当事業所は、開設当時の法人理念「信頼と思いやりの心、ともに豊かに生きる、あなたのお役に立ちたい」を基本理念とし、更に介護理念をも定めています。職員6名が管理者研修の終了者で、職員2名が認知症実践者リーダー研修を修了し、認知症に特化した質の高い介護を提供できるよう目指しています。なるべく利用者には身の回りのこと(掃除、洗濯のたため、調理の下ごしらえ等)をできるだけ行うようお願いし、活気のある日常を提供することで、利用者一人ひとりの残存機能や個々の認知症の症状にあった柔軟な支援に取り組み、握り寿司やゲーム、話し相手などの介護支援ポイントボランティアを受け入れた開放的な事業所で、利用者にとって楽しみとなるように支援体制強化を図っています。利用者に対しての職員の思い「楽しい時間を1日どこかで」「悔いのない1日」など聞き取ることができ、利用者の気持ちを優先するゆとりのある介護が実践され、利用者本位の介護になるよう生活の質を高める努力がなされ、行動・言葉・現場でのグレーゾーン等を指摘し職員教育を徹底して行っています。コロナ禍の中、利用者の外出などは気分転換を図れるよう模索しながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは理念を確認し、ケアに繋がれるように話し合っています。	ミーティングでは理念を讀上げており、理念の浸透を図っております。振り返りができるように理念を掲示しています。日常の中で実践する事と職員は強く意識しており、日々のケアに反映出来るよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや敬老会、町内会の野遊会、各種演芸会の観覧(コンサート・大正琴・)、ドライブ等、外出に心がけています。又施設に来て頂き演奏会等を行っております。	市が開始する港まつりや流水まつり、札響、大正琴など地域住民としての参加や交流を行っています。町内会に加入しており運営推進委員になって頂いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、認知症の方への対応の説明。ケアマネ連協での認知症対応の情報提供をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や他事業所の方の意見や情報を職員ミーティングにて話し合いサービスに反映できるようにしています。ご家族の代表の方へは議事録を送付しています。	運営推進会議は、家族代表や地域代表、包括センター、市職員、他のGH施設長等の参加を得て、年6回定期的に開催され、利用者状況、行事、ヒヤリハット事故報告、意見・情報を得て、運営の改善に繋がられるよう努めています。利用者家族には、運営推進会議の議事録をその都度送付し情報を共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況報告を毎月行なっている他にも運営推進会議に出席して頂き、ご指導頂いております。	市の担当者や包括センターの方に運営推進会議の出席を頂き、利用者の状況や研修、情報の共有等に努めています。疑問点や困り事の相談ができる関係が構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修やミーティングにて身体拘束をしないケアについて話し合い、日中はもとより深夜においても、物色行為や歩き続ける事に対しても、抑制せず安全を確保する事に努めていますが、脳梗塞後麻痺のため転倒を繰り返す方については、御家族と相談し車イスにシートベルトを装着しています。	拘束となる行為とそれに伴う弊害は毎月の会議の中で話し合われ全職員が理解しており、拘束をしないケアに努めています。また、必要な場合は家族に同意を得て本人の安全性を図り実施しています。スピーチロックは全職員で注意をし、必ず利用者に説明し納得した上で職員が行動をするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体のアザなどはいつ何処でできたものかを、すべての職員が把握するようヒヤリ・ハットの記入、ミーティングで話し合いで確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会等で成年後見制度を学んでおりますが、現在対象となりうる方が居られない為、活用には至っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時にはご家族様やご本人に同席して頂き、疑問点等はいつでも問い合わせして頂き説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの要望は気兼ねなく話せる雰囲気作りに努め、その都度迅速に対応しています。電話はいつでも自由に利用できます。	利用者や家族の意見や要望は、毎日利用者 と交わす会話や家族の面会時に把握するように努めています。また、日常の様子はなごみ通信で写真入りで様子を知らせています。要望があるときは職員間で話し合い、実現できるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎、月1～2回のミーティング。管理者と職員との個人面談。日常的に、職員の意見を取り入れ運営に反映させています。	毎月1回ユニット毎のミーティングで、職員の要望の把握や運営に関する意見を検討し反映しています。外部研修の出席及び伝達研修を行い職員のスキルアップに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与や手当、食事代の見直し等を実施し雇用の改善を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や認知症実践者リーダー研修の受講。資格取得の助成を行い、スキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設実習の受け入れを行い、施設間の対応の違いや気づき等、再確認できる場としています。他事業所との交流会にも積極的に参加し知識を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報やご本人の要望をケアに繋がられるよう、その日の職員が気付いた事を全員で共有できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なごみの基本理念やここがどうゆう所かを説明しご家族の不安な気持ちが和らぐよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をお聞きし、ご家族の気持ちとご本人の気持ちを優先し必要と思われるサービス事業所の紹介をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、食器洗い、洗濯物の片づけ等、できる事を一緒に行い必ずお礼の言葉を述べて感謝の気持ちが伝わるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や精神状態の変化等がある時は御家族と連絡を密にし今後の対応を検討したり、通院に対応して頂いたりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室・理容室・洋品店・親戚のお宅など、関係が途切れないよう努めております。	お墓参りやお正月、買い物、馴染みの美容室等の外出を希望する利用者には、家族に連絡を取り支援に努めています。馴染みの市のイベントにはなるべく行けるように支援しています。中には携帯電話で家族と連絡を取り会話を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って会話を取り持ったり、その方に合ったゲームで対応しております。気の合う方同士で居室訪問もしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはなごみとの関係はこれからも続いて行く旨を必ずお伝えしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の生活に満足して頂いているかを考え、何気ない言葉や、表情から何か変だと感じた時には、リーダーに報告し解決に向けたケアを提供しています。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は日常の会話の中で把握するために、日ごろから利用者とのコミュニケーションを大切にしています。また、実現できるように努め、信頼を得て利用者の次の楽しみへと発展させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報はもとより、入居後に面会に来てくださる、親戚や友人の方からも情報を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分にも十分配慮し、気持ちよく達成感が得られるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1～2回のミーティングでのケース検討や面会時にご家族の要望をお聞きし作成しています。	介護計画は基本的に6ヶ月毎にアセスメントやモニタリングを行い本人や家族の意向を聞き、同意を得て介護計画を進めています。毎月の会議ではカンファレンスを行い、利用者の状況の変化を把握し、生活していくためのニーズを検討しケアに反映するように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には個別介護記録を読み、今の現状を把握しケアにあたっている。また急な対応が必要と感じた時は電話にて検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や退去時のお手伝いや、荷物の保管。市役所の手続きの介助。その他ご家族の方が困っている事を解決できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内回覧板や紋別市広報等からの情報をもとに、博物館・図書館・公園・等へ出かけ楽しんで頂けるよう支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前からの医療機関を継続しています。状況に応じご家族やご本人と相談し医療機関を変え健康が維持できるよう努めています。	利用者のこれまでのかかりつけ医の関係を大切にしており、定期受診は基本事業所対応としていますが、状況により家族対応をお願いしています。週1回の訪問看護があり、利用者の1週間の状況を記録し情報を提供し、怪我や急病時に適切なアドバイスや指示が受けられ、利用者の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師さんが訪問までの1週間の出来事を記録にて報告し、急病や軽いけが等は電話にて指導して頂いたり、治療が必要となった時は救急病院を受診しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護師さんへ直接ご本人の情報提供を行い、安心して入院できるようにしています。1日も早く退院できるよう医師にもお願いしております。病院からの急な退院の要望にも対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態の変化にあわせご家族や主治医との情報交換を密に行い、今できる最前の支援に取り組んでおりますが、地域医療が整っていないため看取りには至っておりません。	重度化、終末期に対しての指針で契約時に説明し同意を得ています。医療機関との連携体制が整っていないため看取りは行っていません。利用者の状態に変化があった場合に、医師の指示の基で、事業所としてできる限り本人、家族の意向に沿った支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行ってはいませんが日常の変化や急変等をミーティングで話し合って対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回行っているが、災害時の避難訓練は行っていません。	火災の避難訓練は年2回実施しています。緊急避難場所は3、4階に防火扉があり利用者の安全・安心に繋がっています。ブラックアウトを経験して不足の事態の見直しに取り組んでいます。	その他の災害に対しての対応、対策と近隣の方々の協力体制を整えることにより、更に利用者の安全・安心に繋がるように期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろより言葉づかいには注意し、丁寧語を使い尊敬の気持ちが伝わるよう支援しています。	利用者の人格を尊重し、羞恥心が起きないような介助に努めています。また、利用者が洋服や過ごし方など生活する上でなるべく選択できるように自主性に配慮した支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や好みを把握し、自己選択しやすい方法で問いかけるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な外出の要望にも対応できるよう、その時のスタッフで話し合い対応しています。どうしても無理な時は事務所や他ユニットの協力を得て希望に添えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を準備したり、今日、着たい服を選んで頂いたりしています。お化粧品に時間がかかる事を配慮して声掛けをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは毎日の日課となっており、毎週土曜日には買い物に行き旬の食材を利用しています。器でも楽しめるように工夫しています。おはぎやお団子作りも楽しんでいます。	出前のお寿司や外での焼肉、行事食など、いつもと違う環境での食事を楽しむ事が出来るよう支援しています。利用者はフキの皮むきやもやしのひげ取りなど料理の下ごしらえをしています。おやつは、たこ焼きや牡丹餅などの手づくりを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みを把握してはいますが、何が飲みたいか確認し提供しています。口渇感のない方にはその日の状態で提供するタイミング等を考えながら支援しております。体重や血液検査の結果等、健康状態は配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面所へお誘いし口腔ケアを促しますが、応じて頂けない事もあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンをほぼ理解しており、快適に過ごせるよう支援しています。	トイレでの排出を基本としています。トイレ誘導が必要な方は、個々のパターンを把握し、タイミングを見極めトイレで排泄できるよう心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を使い便秘になりそうな時は下剤の調整を行う。朝に牛乳を飲んで頂いたり、すりおろしリンゴ・ヨーグルト等で予防にも取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決めています、その日の気分や要望により変更をしています。	週2回を基本とし、同性介助にも対応しています。1人で入浴する利用者もおり、ゆったりと入浴を楽しむように環境作りに努めています。入浴拒否の場合は、曜日を変更したりお話ししたりして本人が納得して入って頂くようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態により自由に休憩場所を変更して頂いております。リビングでの安眠を希望される方にはソファや毛布を準備し快適に過ごせるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録に副作用や用法が記載されており共通認識で確認しています。薬の変更があった時は特に状態の変化が無いか注意し、その内容が共通認識できるよう申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	催し物や地域のイベントへの参加、毎日の清掃やゲーム等、楽しい時間が増やせるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の外出には、すぐ対応するよに工夫し、数多くのイベントに参加、日常的なドライブ。また、家族の協力を得て遠方まで外出して頂いたりしております。	日常的には、散歩や買い物、花見にピクニック、港まつりに出かけ気分転換を図っています。ドライブや冬でも流氷祭りや初詣にも積極的に外出し、歩けない利用者には混み合う時間を考慮しゆっくり車で見学できるよう、楽しい時間を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、希望されている方には所持して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、希望した時は職員がダイヤルし手渡している。携帯電話を所持している方の管理も行っています。手紙のポストへの投函も一緒に行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年中、居間・廊下・洗面所・居間には観葉植物を飾り。春夏秋冬にはリビングに生花。(近所で花摘みをしたり)夏には風鈴。其々で作成した工作を飾ったりしています。BGMには昭和の曲をかけて懐かしんでいます。	廊下には木製のベンチが配置され、歩く運動スペースがあり、疲れた時に座ったりと利用者個々が思い思いに落ち着く場所が確保されています。居間でも、自由に寛げる雰囲気環境作りがなされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が入り替わる時はソファの配置を変えたりリビングのレイアウトを変えたり全員が仲良く過ごせるよう工夫しています。リビングからみえない廊下にも椅子が設置されています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や趣味の物を自由に持ち込んで頂き、満足できる空間になるようアドバイスをしています。物が多く居心地が悪くなった時には保管場所の提供もしています。	各部屋は広く、収納しやすいクローゼットが配置されています。利用者は使い慣れたベット、ソファ等の家具や冷蔵庫、家族の写真等を飾り居心地よく生活できる様に工夫しています。中には仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。利用者状況に合わせ生活動線を考慮した配置をしている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に応じ案内板をつけたり、表示を変更したりしています。		